

巨大ＩＴとも対決した欧州委員退陣の余波は



岡 大介

欧州連合（ＥＵ）の欧州委員会のブルトン前委員（域内市場担当）が9月16日、突如辞任して注目を集めた。2期目に入っ

たフォンデアライエン欧州委員長が新たな欧州委人事を発表する前日のできごとだった。フォンデアライエン氏が権力基盤を強め、対立していたブルトン氏を追い落とししたとも報じられる。ただ、巨大ＩＴ企業との対決で存在感を發揮したブルトン氏の不在が響く事態もありそうだ。

仏経済・財務・産業相や複数の大企業の経営者を経験したブルトン氏の発信力は、欧州委の閣僚にあたる委員の中では際立っていた。例えば7月、欧州委は、X（ツイッター）が違法コンテンツへの対応が不十分だったと指摘。Xのオーナーであるイーロン・マスク氏は投稿で欧州委との「密約」を明らかにするとして訴訟をちらつかせた。しかし、ブルトン氏は「どうぞ、お好きなように。『密約』など絶対に存在しない」と二歩も引かずにやり返した。

欧米メディアによると、フランスは当初、自国に

割り当てられた委員にブルトン氏を再任するつもりだった。だが、リベラルなブルトン氏と対立してきた中道右派会派出身のフォンデアライエン氏がマクロン仏大統領に、希望する担当ポストを与える見返りにブルトン氏を選出しないよう突きつけた。それがブルトン氏の怒りを買ひ、辞任につながった。

1期目の承認投票の際には連立会派内から造反者が出て、フォンデアライエン氏はぎりぎりでも過半数を確保し就任した。その後はウクライナへ侵攻したロシアや、安値攻勢で域内市場を席巻する中国に対する「欧州の結束」を訴えて求心力を高め、危なげなく再選した。「フォンデアライエン氏は2期目に入り、自分の色を出す」。ある欧州外交関係者はこう予測していた。それが人事でも發揮された形だ。

押されたマクロン氏は結局、セジュールネ仏欧州・外相を次期委員に選出した。産業などの重要分野を担当することになった。だが、39歳と若く、目立った実績もないセジュールネ氏がブルトン氏のように個性や存在感を發揮できるのかは不明だ。

ブルトン氏は悲観的なようだ。9月16日に「次期欧州委のポートレート」と題し、何も描かれていない画布が額装された写真をXに投稿した。